

第11回 6/26 (CS1・5限・荒井) ネットワークプランニング ダイナミックルート・RIP

本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

1

今日の予定

- ダイナミックルーティング
 - ルーティングとルーティングテーブル【復習】
 - ダイナミックルート(p264)
 - ルーティングプロトコル(6章2-1)
- RIPの設定(6章3-1)
 - RIPを有効にする
 - router rip
 - RIPを使うネットワークを指定する
 - network networkaddress
 - 例: サブネットなしの例とサブネットありの例
- 演習: 3台のルータによるRIP

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

2

ルーティング(6章1-1)【復習】

- ルータ(ネットワーク層のデバイス)によってネットワークとネットワークが接続されるが、自ネットワークではない(リモート)ネットワークにアクセスするための経路制御; 異なるネットワーク宛のパケットを転送するためのプロセス
 - ルータの最大の役割
 - ルータはネットワークとネットワークの橋渡し
 - 何でも渡せばよいというものではなく、どのようなものを持ち渡すか選択

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

3

スタティックとダイナミックルートの比較(6章1-2)【復習】

- スタティックルート
 - 管理者: 手作業。トポジ変更があれば適宜修正
 - ルータの負荷: 小さい
 - ネットワーク規模: 小規模、末端NW(スタブ: ルータに対して一ヶ所だけ接続されているNW)に有効
 - セキュリティ: 高い
- ダイナミックルート
 - 管理者: 自動設定。但し初期設定時にはそれなりの知識が必要
 - ルータの負荷: 大きい
 - ネットワーク規模: 小~大規模に有効
 - セキュリティ: 低い

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

4

ルーティングテーブル【復習】

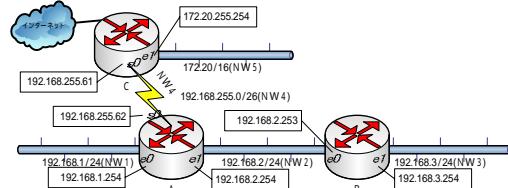
- 経路情報のデータで、これを用いてルーティング先が決定される
 - 宛先NW with Netmask, Gateway, Interface/NextHop, Cost/Distanceなどの情報
- ルーティングテーブルの確認
 - show ip route [特権モード内]
- 有効化されているI/Fのネットワークは、自動的にルーティングされる
 - ルーティングテーブルに自動的に登録される

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

5

具体的なルーティング情報例【復習】



- ルータAにおけるるべきルーティングテーブル
 - 192.168.1/24: e0(直接)
 - 192.168.2/24: e1(直接)
 - 192.168.255.0/26: s0(直接)
 - 192.168.3.0/24: 192.168.2.253
 - 172.20.0.0/16: 192.168.255.61
 - デフォルトルート: 192.168.255.61

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

6

ダイナミックルート(p264)

- ルーティングプロトコルによって、自動的に経路が設定される(学習)
 - トポロジーが変更された場合でも、自動学習
 - ネットワークの追加などが行われた場合、直接関係するルータのみの設定でOK
 - 障害などによって、あるネットワークが遮断された場合、自動的に障害のあるネットワークへのルーティングが削除
 - ルーティングプロトコルによって、決定される経路は違う
- 隣接するルータ同士がルーティング情報をやりとりし、次々と伝播させる

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

7

ルーティングの設計

- 管理するネットワーク全体のトポロジーなどにより、静的か動的か、各ルータにおけるデフォルトルートなどを決定
 - いずれにしても各ルータにおけるるべきルーティング情報はきちんと把握しておく必要がある
 - クライアントについて
 - ルータではない通常のノード(ホストなど)においては、最低限デフォルトルートを指定する必要がある
 - ノードによっては、動的ルートをサポートしているものもある
 - 2つ以上のルータが存在するネットワークにおけるノードのデフォルトルート先は、どのルータを指定してもOK
- 動的と静的のルーティングの両方を用いることも可能
 - ネットワークの一部範囲で使い分けることも可能
 - 一つのルータで両方を使うことも可能

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

8

ルーティングプロトコル(6章2-1)

- IGP (Interior Gateway Protocols)
 - 自律システム(AS: Autonomous System)内で使用するルーティングプロトコル
 - RIP, OSPF, IGRP, EIGRPなどがある
 - RIPは小規模、OSPFは大規模、後者二つはCisco特有
- EGP (Exterior Gateway Protocols)
 - 自律システム(AS: Autonomous System)間で使用するルーティングプロトコル
 - BGP4, EGPなどがある
 - BGP4はインターネットで標準的に使われている

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

9

RIP(6章3-1)

- 小規模なネットワークに有効な動的制御プロトコルで、ディスタンススペクター型アルゴリズム
 - ホップ数を距離として最適経路を決定
 - 速さなどには無関係
 - 15以上のホップは不可能
 - アップデート(情報伝達)は30秒間隔
 - サブネットマスクの情報は伝達されない
 - クラスフルネットワークで設定する必要がある

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

10

RIPの設定

- 個々のルータでRIPを使用するためには次の2つの設定が必要
- RIPを有効にする
 - router rip [confモード内]
 - router-confモードに移行
- RIPを使うネットワークを指定する
 - network network-address [router-confモード内]
 - network-addressには他のルータに伝えるべきネットワークを全て個々に(つまり基本的にはネットワークの数分だけ)指定する
 - サブネットマスクは指定しないことに注意

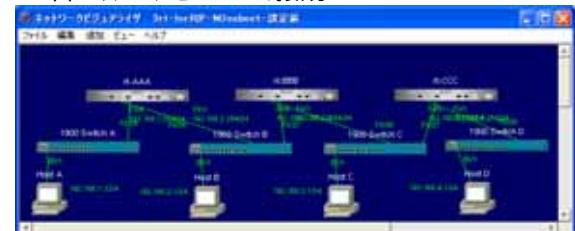
2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

11

4つのCネットワークのRIP設定例(1)

- 4つのネットワーク(サブネットなし)
 - (1)192.168.1.0/24, (2)192.168.2.0/24, (3)192.168.3.0/24, (4)192.168.4.0/24
 - いずれも元々クラスC
- 3台のルータをEtherで接続



2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

12

4つのCネットワークのRIP設定例(2)

- ルーティングを設定していない場合、例えば NW(1)からNW(3)へ疎通できない
- ルータAにおけるRIP設定
 - router rip
 - network 192.168.1.0
 - network 192.168.2.0
- 同様に各ルータに設定

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

13

設定と動作の確認

- show ip protocols でRIPが動作していることを確認
- ルータCにおけるルーティングテーブル
 - rt-CCC# show ip route
 - R 192.168.1.0 [120/2] via 192.168.3.254, 00:00:07, FastEthernet0/0
 - C 192.168.4.0/24 is directly connected, FastEthernet0/1
 - C 192.168.3.0/24 is directly connected, FastEthernet0/0
 - R 192.168.2.0 [120/2] via 192.168.3.254, 00:00:07, FastEthernet0/0
 - 'R' がRIPによって設定された情報
- 疎通確認はpingで
- tracert(Windows)もしくはtraceroute(Cisco)によりルートも確認しよう

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

14

4つのsubネットワークのRIP設定例 (p295)

- 本来クラスBの172.16/16を256個分割(個々の sub-netは/24になる)したネットワーク4つを接続した例
 - ルータAは172.16.1.0/24, 172.16.2.0/24を接続
- ルータAにおけるRIPの設定
 - router rip は同じ
 - network 172.16.0.0 とする
 - 「network 172.16.1.0」と「network 172.16.2.0」の二つではなく、上記一つのみ
 - RIPではサブネットマスク情報が伝播されないので、クラスフルネットワークで指定しなければならない。
 - クラスフル = サブネット化する前のネットワーク

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

15

演習 ; RIPによるネットワーク構築

- サブネット化したネットワーク4つを3台のルータで接続し、RIPによるルーティングで、ネットワークを正しく動作させよう！
- 対象とするネットワークは、教科書p292の例とする
 - (1)10.1.0.0/16, (2)10.2.0.0/16, (3)172.16.1.0/24, (4)172.16.2.0/24
 - (1)(2)は本来クラスA(8)、(3)(4)は本来クラスB(16)
 - 各ネットワークはスイッチ(1900)とし、各SWにはホストを1台設置するものとする
 - ルータ3台により全てEtherで接続
 - 各ルータにおいてデフォルトリートはなしとする
 - 各ホストのデフォルトリート先は、ルータが2台ある場合には、左側のルータとする。

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

16

演習 ; IPの設計と構築

- IPを設計して、NV4で構築
 - 今回は予め設計済みなので、確認すること
 - Deliveryドライブから「3rt-forRIPp292.rsm」を自分のホームにコピーし、「学籍番号-0626.rsm」というファイル名に変更し、これをロードしよう！



2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

17

演習 ; RIPの設定

- RIPを除く設定は既にされている
- まずは各種確認
 - IPアドレスなどをきちんと確認すること
 - ルータでは show running-config、ホストではIP Config
 - ホストAからホストBへのpingはOKだが、ホストCへはNGであることを確認
- RIPの設定
 - 各ルータにおいて適切にRIPを設定しよう

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

18

演習；ネットワークの動作確認

• 動作確認

- ルータの設定情報だけでなく、動作しているルーティングプロトコル、現在のルーティングテーブルを表示して確認
 - RIPは30秒毎に情報が伝播され、すぐに全てのルータが自動設定されるわけではないことに注意
- ping, traceroute(traceroute)などで確認
 - 例えばホストAからホストDへなど、基本的には全てで確認すること

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

19

演習；保存と提出

• 完成した(NV4の)ネットワークを保存

- ファイル名は「学籍番号-0626」とする
- 完成していないても(きちんと動作していないても)、保存してください。

• ネットワークフォルダ(weekly)に、保存したファイルを提出

- 完成していないても(きちんと動作していないても)、必ず提出してください。

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

20

今日のまとめ

- ダイナミックルーティング
 - ルーティングとルーティングテーブル[復習]
 - ダイナミックルート(p264)
 - ルーティングプロトコル(6章2-1)
- RIPの設定(6章3-1)
 - RIPを有効にする
 - router rip
 - RIPを使うネットワークを指定する
 - network networkaddress
 - 例;
 - サブネットなしの例
 - サブネットありの例(p295)
- 演習；3台のルータによるRIP(p292)

2006/06/26

第11回ネットワークプランニング(荒井)06

21